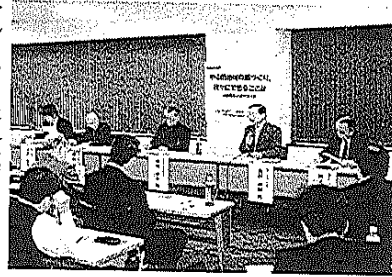


専門知識で社会貢献を

コンサル協 共助研が勉強会



農山漁村の問題などを意見交換

(社)建設コンサルタンツ協会九州支部の九州郷づくり共助ネットワーク研究会(共助研)は1月27日、福

岡市のアーケビルで勉強会「中山間地域の郷づくり、我々ができることほろろ小川教授と語り合う会」を開いた。

共助研では、昨年から、中山間地域における支援のあり方をテーマに勉強会を開いてきた。都市と農村の役割分担を前提とし、共生関係を結

ぼうという新しい形の「まち」と「むら」の提携を呼びかけている九州大学名誉教授の小川全夫教授を招き、今回で3回目の勉強会となった。

共助研からは、これまでの勉強会や活動をとりまとめた「共助による郷づくりのための仕組み・活動・体制に関する提言案」が提出された。

この提言では、人口減や高齢化が進む農山漁村地域で起きている問題をとりえ、専門知識を持つコンサルタンツとして努めるべき事柄①結核活動(地域と行政、または各支援活動者を結ぶ)②伝える活動(様々な支援活動の分析や広報、研究と政策提言)③ひろく活動(地域課題の解決ビジネス模索、OB世代の社会活動フィールドの提供)の3つを活動の柱に位置付けている。

今後は、内閣府が提唱する「新しい公共」の考え方の流れにも沿い、単なるボランティア活動にとどまらず、プロ集団としての奥の社会貢献活動になるよう推進していくという。

共助研では現在、会員、賛同会員を募集している。活動の詳細は共助研ホームページで。

(取材) 塚田